

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

第3号

Dec 2008

その夢は、きっと世界を変えていく。



第5回交流会（第2回奨学金贈呈式）



第6回交流会 富士山山頂にて

Contents

- | | | | |
|------------|--------------------------|-------------|-----------------------|
| P.2 | 一語一会「一つの心に重なる心」
寄付者名簿 | P.9 | 第7回交流会レポート
（大相撲観戦） |
| P.3 | 平成20年度 上半期活動報告 | P.11 | 奨学生の夢をご紹介します |
| P.4 | 第5回交流会レポート
（贈呈式・祝賀会） | P.14 | 竜の子近況報告 |
| P.6 | 第6回交流会レポート
（富士登山） | P.16 | 編集後記 |

財団法人 秋元国際奨学財団

「一つの心に重なる心」

今夏、留学生Kさんの案内で渡日時・学部奨学金プログラム推進のため、中国江蘇省の蘇州中学校(日本の高校にあたる)を訪問する機会があった。同中学校は、1035年の開学で、973年の長い教育の歴史と先進的な教育理念のもと、多彩な教育プログラムによって毎年多くの優秀な卒業生が海外に進学している。

ところが、日本留学への決心となると、中国東北部の高校にみられるような「日本語クラス」がないので、独学に近い形で日本語を学び、1年生又は2年生終了後、日本の高校に転校(編入)して来る。そこで日本の高校生と同じ条件で1～2年日本語を学びながら各教科を猛烈に勉強し、一般の大学入試に臨むことになる。したがって留学生センター試験とは無縁の進学経路を辿るのであるが、こうして来日した留学生は、これ迄すべて東京大学に合格している。本人の資質もさることながら、その決断と努力はいかばかりなものか、又、同中学校の教育者やご両親は、どのような方なのか、ぜひ会って話をしてみたい、との思いにも駆られて同上中学校の訪問が実現したものである。

ところで、筆者の大学受験時代、1960年代の日本は、高校進学率が16%程度であり、さらに狭き門である大学進学のため、「ただ勉強をしている」という状態であった。それは、1910年代から50年も変わらず、いわゆる「エリート受験の時代」が長く続いてきたように思われる。

その時代の高校生の深層には、都会への憧憬(しょうけい)と家族、一族、田舎の期待を背負って勉強し、立身するという一途な思いがあった。

このたびの蘇州への旅は、まさに筆者の往時を彷彿(ほうふつ)とさせる場面があった。

夕闇が迫る蘇州、上述したプログラムによって、子どもたちを日本へ送り出す学校関係者、両親たち総勢20数名との交流を終え、上海へ帰る車に乗って別れの挨拶をしている時、前述のKさんの母親が車に寄ってきて、娘(Kさん)の手をしっかりと握り、わずかな言葉を交わしながら、二人とも涙ながらに別れを惜しんだ。やがて車は動き出したが、やや年老いた母は、娘の手を離そうとはしなかった。

思えば、2泊3日の蘇州訪問は、留学生のKさんにとって通訳やアテンドで忙しく、実家に泊まることはおろか何年かぶりであった両親との会話も20～30分程度のものであったろう。束(つか)の間(ま)で別れる一人娘に重なる母親の心、また、その静寂(しじま)の光景に重なる多くの心。

皆さんもそうした「心」をもっていると思うが、それを大切に持ち続けながら夢をみつけ、夢を実現してゆくことだろう。

財団は、ごく少数の留学生しか応援できないかも知れない、しかし、竜の子奨学生は将来、多くの人の心に影響を与える人間になってもらえば、望外(ぼうがい)の幸せである。



理事 おがわ しんご 小川 進吾
財団法人
産業医学研究財団
理事長

「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

寄付者 名簿

小林 英一 様(大建ビルテクノ株式会社 代表取締役)

河本 貞子 様(株式会社アルデプロ 一般株主)

泉 毅 様(株式会社マッチング・ナビ 代表取締役)

岸野 一夫 様(株式会社未来塾 代表取締役塾長)

ご寄付いただいたみなさまへ

このたび、たくさんのご寄付をいただき、心より御礼申し上げます。

みなさまからの暖かい援助は、私たちにとって大きな励ましと鞭撻となり、経済的にも精神的にも安定し、勉学と研究に集中できたことは何より感謝の気持ちでいっぱいです。そして、それとともに、自分の夢を追い続けることもできました。さらに、ご寄付いただいたみなさまや他の奨学生と交流し、一緒に日本の歴史、文化、伝統にふれることができ、私たちの人生において本当に貴重な体験もさせていただきました。

竜の子奨学金は勉強に励み、上に向かって進む私たちへの評価であり、これから、社会のさまざまな分野で活躍する竜の子奨学生に対する大きな期待でもあると思います。それを重く受け止め、今まで以上に努力して、それぞれの分野で成功することは多くのご寄付をいただいたみなさまからのご期待に応えることではないかと感じます。社会に出て、竜の子奨学生の一員としての誇りを胸に抱き、日々邁進していく所存です。

(電気通信大学大学院 夏力哈尔)

平成20年度上半期活動報告

●5月17日

第3回理事会・第2回評議員会を開催（於：ヒルトン東京）

- （1）平成19年度事業報告及び収支決算について
- （2）新公益法人制度への対応について

●5月17日

第5回交流会開催（於：ヒルトン東京）

第2回奨学金贈呈式・祝賀会



●7月4日～6日

第6回交流会〔国内研修旅行〕開催

2グループに分かれて開催 石和温泉で合流

・富士山頂チャレンジグループ 7月4日～6日

第1日目 五合目より登山開始

七合目の山小屋に宿泊

第2日目 深夜に登山開始。ご来光の後、下山。

石和温泉に宿泊

第3日目 山梨県内観光

・六合目散策グループ 7月5日～6日

第1日目 六合目を散策。石和温泉に宿泊

第2日目 山梨県内観光



●9月27日

第7回交流会開催

東京タワー観光

大山親方による講演会（於：相撲教習所）

大相撲九月場所観戦（於：両国国技館）

チャンコ料理による懇親会（於：割烹 吉葉）



第5回交流会レポート

● 第2回奨学金贈呈式 ●

平成20年5月17日、ヒルトン東京にて第2回奨学金贈呈式が開催されました。平成20年度竜の子奨学生として選ばれた25名の留学生たちを迎え、理事長や奨学生代表のスピーチが行われました。財団関係者の皆様やご来賓の皆様の歓迎と祝福の中で、贈呈式は円満に終了しました。

理事長式辞

この度、竜の子奨学生として採用された留学生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんは今、奨学金を得られ、喜びと期待で夢は大きく広がっているものと思います。財団では定期的に交流会を開催することで、竜の子奨学生同士が交流を深めることを期待しています。同じ竜の子奨学生となった縁で、皆さんが、友情をはぐくみ、将来もずっと交流を続けていくことが、国と国を超えた国際理解に繋がると考えているのです。そうすることで、竜の子奨学生としての仲間意識が芽生え、皆さん一人一人の力は小さくとも、力を合わせることで、世界各地で起きている社会問題や紛争を解決できるだけの大きな力になるのではないのでしょうか。世界の平和の実現に向けて、皆さんがそれぞれに努力していただくことを期待して、言葉を結びます。

奨学生代表挨拶 東京海洋大学 李 博（中国）

この度は、秋元国際奨学財団の竜の子奨学生として採用していただきまして、本当にありがとうございました。私は4年前、交換留学制度によって初めて来日し、北海道大学で留学生生活をおくりました。北海道の美しい海の風景が心を打ち、私は水産物の安全管理をテーマとする研究に関心を持つようになりました。再び日本へ戻りました。現在、私は東京海洋大学で、中国の水産物の生産リスクについて



式辞を述べている秋元理事長

の研究をしています。卒業後は母国に帰って、大学教員となり、若い学生たちに中国の食品安全管理の現状を伝え、海洋問題を解決することの大切さを教えるのが私の夢です。これからはしっかりと自分の夢の実現に向けて、進んでいくだけです。秋元理事長を始めとする財団関係者や寄附者の皆様に、あらためて感謝するとともに、皆様からのご期待に添えるよう「竜の子奨学生」の仲間と手を取り合って、世界平和の実現に向けて、惜しみなく貢献していくことを、ここに誓うことで、奨学生代表としてのご挨拶とさせていただきます。



挨拶している李 博さん



選考結果を報告する選考委員長・有山正孝先生

● 祝 賀 会 ●

贈呈式の後、参加者はリラックスした気持ちで祝賀会を迎えました。平成20年度及び平成19年度の奨学生たち、そして財団関係者の皆様は笑顔をしなが、お互いに熱い挨拶と言葉を交わしました。とても暖かくてよい雰囲気でした。竜の子奨学生の皆さん、夢に向かって一緒に頑張ってください。

理事長挨拶

皆さんには明日の地球を担う原動力になるような人材になって、大きいところでは世界平和を目指して頑張っていると思います。皆さんには大きな夢があります。その夢を着実にかなえていただきたいと思います。そして、皆さんがここに至るまではいろんな方々のご協力とご支援があったはずで、いつも感謝の気持ちを持っていただきたいと思います。

川村理事祝辞

財団に新しい仲間が加わって、しっかりと元氣な顔ぶれの揃ったことを大変心から喜んでおります。これから希望に燃えて勉学に励む際には、つねに秋元理事長の姿、生き様というものをしっかりと見継いでいただければと思っております。そして、皆さんにはぜひ社会貢献活動にも積極的に取り組むよう期待します。

歓迎の言葉 平成19年度竜の子奨学生

東京大学 呉 延花（中国）

今日から私たちの仲間として皆さんを迎えることができ、本当に嬉しく思います。交流会では、専門的なことのみならず、文化や生活などについても交流していきましょう。またこれからは仲良く、楽しく日本での留学生生活を充実していきましょう。



祝賀会を通じて深めていく交流、友情

祝辞と乾杯のご発声 評議員 大沢啓二 様

秋元国際奨学財団での活動は視野を広げる大きなチャンスです。多くを学び、様々な経験をし日本文化に触れてください。そしてスポーツを楽しむことも大切です。皆さんのこれからのますますのご発展とご成長を祈念して乾杯！



祝辞を述べる評議員・大沢啓二様

閉会の言葉 評議員 山下泰裕 様

思いつきり本来の目的に向かって頭と心を磨き高めてほしいと思います。皆さんがしっかり学び、研究して、皆さんの国々の発展のために活躍し、国民の幸せに貢献していただきたいと思います。皆さんが日本とアジアの国々を結ぶ架け橋になっていただければと思います。



閉会の言葉を述べる評議員・山下泰裕様

（担当：平成19年度 竜の子奨学生 東京大学大学院 呉 延花）

第6回交流会レポート

平成20年7月に、竜の子奨学生の第6回交流会が開かれました。5月の贈呈式・祝賀会を機に、50名（11ヶ国）となった竜の子奨学生は、秋元理事長をはじめとする財団関係者、寄付者の皆さん、選考委員の横田先生とともに、山頂チャレンジコースと六合目散策コースの二コースに分かれて、日本一の富士山に登りました。コースが違うものの、今回の富士登山は、奨学生にとって全員で協力し合うことの大切さ、そしてそれによる目標達成の喜びを実感し、互いの絆を深める旅となりました。

山頂チャレンジコース

7月4日11時30分に山頂コースのメンバーが新宿のアルデブロ本社に集まりました。2ヶ月ぶりの再会で、会えなかった時間を埋めるように楽しいおしゃべりが続きました。常務理事の廣田さんの富士登山の注意事項を受けてから、全員富士山に向けていざ出発！

バスに揺られて2時間ぐらいで富士五合目に到着。本物の富士山を目にして、これから自分達がこの頂上を目指すと思うと胸がドキドキしてきました。車から荷物を降ろし、登山用装備を身につけて、あっという間に、全員がクライマーに変身。よっしゃ～いくぞ！その前に、集合写真を撮りましょう！富士登山の恐ろしさを知らないみんなに、天使みたいな笑顔を見せました。



登山前の記念撮影
(一番左のおじさんを知っている人はいますか？)

登山口の所で、山頂から戻ってきた方々とすれ違い、私達に「富士山とったどお～」と喜びを分けてくれた方がいました。よ～し、私達も頑張るぞ！！ガイドさんは登山時に一番重要なペースを作って、歩くスピードを教えてくださいました。歩いてみたら、う～ん、亀さんよりも遅～いスピードで、まるでスローモードで再生した映画みたいです。お互いの動きを見てみんな大笑いしました。最初のところ、楽勝でしたが、歩いていくうち、みんなだんだん真剣な顔になってきました。

普段は座って授業や研究をするだけで、こんなに歩くことがないため、辛くなってきた人も少しずつ現れました。おなかもぺこぺこで、体力も限界に近づいた時に、やっと赤い鳥居をくぐり、本7合目の「鳥居荘」に辿り着きました。



ご飯はまだですか

みんなでわいわいして、美味しいカレーライスを何杯も頂きました。頑張った後のカレーライスは美味しかったです。仮眠を取ろうとした所、誰かが早くも夢の中に入り、大きな鼾をかき始めました。みんなは思わず笑い、そのリズム感のある鼾を聞きながら、眠りにつきました。

夜中の12時頃にガイドさんに起こされ、寝ぼけながら、山頂に向かって出発しました。山頂に向かう道のりは今までの道よりも険しく、それに空気が薄いため、呼吸するのも、動くのも大変でした。みんなで富士山の山頂でご来光を拝むという思いがあるため、何があっても誰もあきらめなかったです。歩くのが辛くなった人を、誰かが支えながら、一緒に歩いていました。険しい岩場に着いて、男性陣は女性陣が登れるように、引っ張ったり、支えたりして助け合いました。暗闇の中に、伸ばしてくださった暖かい手の感触は一生忘れられることはないでしょう。こうして、竜の子登山隊が無事に山頂に辿り着いて、全員で、日本一、いいえ、世界一のご来光を目にしました。



富士山山頂にて

富士登頂を達成した後、全員で石和温泉に向かいました。登頂した達成感を感じながらの温泉は最高です。入浴後全員グーゲーと夢の中に入りました。

六合目散策コース

六合目散策コースの参加者は7月5日の11時に新宿を出発して、頂上コースの参加者が石和温泉に着く頃に富士五合目に到着しました。1時間前後の散策なので重装備を身に着けることもなく、気楽な気持ちで2名のガイドさんの後ろにくっついて、はしゃぎながら歩き始めました。話がはずむ中、何？ガイドさんの一人は山頂チャレンジコースの参加者の案内も勤めましたって？何というタフな方でしょう。会話をしながら歩いているうち、ガイドさんからストップがかかりました。えっ？もう六合目ですか、山頂がすぐそこに見えていますが、と思っていた人も多かったようですが、残念ながら、そこまでたどり着くには半日がかかります、興味のある方は次回に



六合目風景

どうぞ、今日は記念写真でがまんしてくださいね。とその時、ガイドさんが一つの石に指差しながら、人気番組SMAP×SMAPの罰ゲームで案内した時、木村拓哉さんがその石に座ったと説明すると、ギャーという声が上がリ、カメラのフ

ラッシュがいっぱいひかりました。ラッキーな石ですね。

五合目に戻ってきて、休憩時間を利用し小御岳神社を参拝します。縁結びの神様だから、みんな、よくよく拝むといいですよ、とバスガイドさんが言いましたね。

夜の宴を楽しみにしているみんなを乗せ、バスは石和温泉に向かって再び出発しました。

合流後の活動

夜7時、山頂チャレンジコースと六合目散策コースのメンバーに、理事の太田孝昭先生、選考委員の有山正孝先生、総合合格闘家の吉田秀彦さんが加わっての宴会が始まりました。お忙しい中、竜の子奨学生の交流会に参加してくださる皆様方に心より感謝を申し上げます。

みんなは本格的な和食料理を楽しみながら、懇親会企画委員会（今回は立命館アジア太平洋大学の皆さんが担当）が用意してくれたプログラムを楽しみました。理事長や来賓の挨拶、乾杯の音頭の後には、20年度の奨学生たちの自己紹介です。その緊張した面持ちを見て、19年度のみんなは1年前の自分を思い出したのではないのでしょうか？

その後は、サワーンさんによるネパールの伝統楽器、シタールの演奏です。そのきれいな音色に魅せられ、会場の皆さんは幻想の世界に入りました。会場から大きな拍手が上がった後、吉田さんが立ち上がり、昨年の箱根旅行の時、個人スピーチ大会で優勝したチーム、京都大学の曹洋さんと立命館大学の孫揚さんを指名しました。二人は吉田さんの強いご要望に応え、即興で富士登山をネタにし、好評の漫才を披露してくれました。会場全体は笑い声で沸き上がり、懇親会もクライマックスを迎えました。最後に、全員総立ちで「少年時代」と「世界に一つだけの花」を歌って宴会の幕を閉じました。



盛り上がっている懇親会

もっとみんなで歌いたいということで、ホテル内のカラオケルームに入り二次会開始。普段、奨学生のみんなにとって



郭甜甜さんと踊る上機嫌の吉田秀彦さん

雲の上の存在である理事長や吉田さんも一緒に歌を歌い、二次会を大いに盛り上げてくださいました。

その熱はカラオケルームが0時に閉店しても下がることはありませんでした。そこでもっと語り合いたい方々は部屋に移って、3時過ぎまで杯を交わしていたそうです。

翌朝、ホテルを出発する前に、まず全員でワンショット。とびきりの笑顔ばかりで、よいお湯のおかげですか～元気のないみんなは昨夜飲み過ぎののでは？



最終日、ホテル玄関前で全員集合

それでは、この日の最初の目的地、一宮御坂桃園を目指してシュッパ～ツ！そうです、今からは桃狩りに行きます。ほとんどの奨学生にとってははじめての経験というだけに、車内はわくわくの雰囲気包まれています。ホテルから15分ほどして目的地の桃園に到着しました。いざ出陣と思いっきや全員集合の号令がかかりました。吉田さんのお帰ります。宴会を盛り上げていただき、ありがとうございました。次回お会いすることを楽しみにしています。

初めて日本の桃園を訪れるみんなにとってはすべてが新鮮です、最初に食べさせられた桃だけは例外ですが。みんなはおいしい桃に大満足みたいで、朝食のご飯を遠慮したかいがありましたね。



おいしい桃ですよ

ちょっと待って！理事長は？と気がついたら理事長もいつの間にか帰られたようです。みんなに気を遣わせたくなかったのですね。ご多忙の中、素敵な旅を、ありがとうございました。桃狩りを終えて、次の目的地、戦国武将・武田信玄にちなんだ信玄餅で知られているお菓子屋さん、桔梗屋の本社工場に向かいました。工場を見学し、その近代化に感心するとともに、隣のお菓子の美術館に置いてあるお菓子で作られている風物詩に驚きました。何よりみんなを喜ばせたのは桔梗屋の半額セールでした。バスに戻るときには誰もが手にいっぱいのお菓子を持っていました。



桔梗屋の工場見学

桔梗屋から30分程して、昼食を取るために、バスは甲府富士屋ホテルに到着しました。この後の別れを惜しむかのように、テーブルから伝わってくる笑い声は止りませんでした。富士屋ホテルを出て、バスは新宿に向かって走り出し、帰途につきました。車内で、人生の役に立つ山下泰裕先生の著書『柔の心』が、理事長の特別手配でみんなの手元に1冊ずつ配られました。今回の交流会もいよいよ終曲を迎えようとしています。新宿に着いてからも、私たちはいつまでも路上で話を続け、なかなかそこから離れようとしませんでした。次回の交流会でまたお会いしましょうね、楽しみにしていま～す。

(担当：平成19年度 竜の子奨学生 電気通信大学大学院 夏力哈尔
平成20年度 竜の子奨学生 筑波大学大学院 馬 耀)

第7回交流会レポート

第7回交流会は、東京タワーと大相撲見学という、日本を代表するものに触れる企画でした。特に相撲は両国国技館まで出向いて本場所観戦を楽しんだ後、本物の土俵のある店でちゃんこ鍋をいただくという豪華なプログラム。全国から集まった竜の子奨学生は、本格的な日本文化を間近に感じる機会に接し、身も心も大満足した一日となったのです。

「日本の伝統的文化と言えバ？」と聞かれたら、私なら「歌舞伎」、「サムライ」を連想します。サムライの象徴と言えバ、あのチョンマゲ。日本がハイテク技術の先進国になった今日でもなお、そのチョンマゲスタイルをつらぬき通している大相撲という種目に、私は来日前から少なからず興味を抱いていました。ですから今回の交流会の案内をいただいたときから、この日を心待ちにしていたのです。

秋の気配も深まってきた平成20年9月27日、東京駅に集合した竜の子奨学生がまず向かったのは東京タワー。さすがにあまりにもポピュラーな観光名所だけあり、参加者の半数はすでに経験済みだったようですが、人間は高いところに上るとなぜか心が躍るもの。展望台の上では初めての人はもちろん、経験者も楽しくはしゃぎ回っていました。

次に一行が向かったのは両国国技館。いよいよ本日のメ



東京タワー展望台にて。手に持つのは理事長への寄せ書き

イン・イベントの開始です。同所ではちょうど秋場所が開催されており、当日はその14日目にあたります。

まずは「相撲教習所」で大相撲の概要を学びました。レクチャーしてくださったのは、大山親方（現役時代のしこ名は大飛）。力士の教育を担当する相撲教習委員であり、NHKの大相撲中継では各取り組みの「決まり手」を決定するという重要な役目をやっている方です。そこでは大相撲の起源や作法などが講義され、それまで相撲に興味のな



力強く講義する大山親方

かった学生も興味深そうに聞き入っていました。私が特に面白いと思ったのは、①土俵を作る際は、下に米や酒を入れてその上に土を盛る（今でもそのようにしているそうです）。②取り組みの最後に行われる「弓取り」は以前は千秋楽のみに行われていた。途中から興行を盛り上げる意味で毎日やるようになった。③相撲はもともと神に感謝する「男の祭」だったので、土俵に女性が立ち入ることはできない。男女同権の現代になってもその伝統は曲げることはできない。などです。ちなみに後日、日本人の友人に聞いてみたところ、誰も正しい答えを知る人はいませんでした。日本人も知らないトリビアを得て、私はちょっぴり自慢したい気持ちでした。



手に汗握る本場所観戦

それが終わると相撲博物館を見学し、その後はいよいよ本場所の観戦です。朝青龍関が休場していたのは残念でしたが、もう一人の横綱である白鵬関がこの日まで一敗でトップを走っている状況。今日勝てば千秋楽を待たずに優勝が決まるという、まさにクライマックスです。試合は結びの一番で白鳳関が琴欧州関を破り見事優勝。大歓声に乱れ飛ぶ座ぶとん。我々のテンションが頂点に達したは言うまでもありません。

興奮冷めやらぬ我々が次に向かったのは、懇親会会場の「吉葉」というちゃんこ屋さんでした。



割烹「吉葉」にて。あいさつするモンゴル出身のオソルさん

この店は以前本当の相撲部屋（宮城野部屋）として使われていたということで、店の中央には本物の土俵が残っていて雰囲気抜群。我々はそこで豪華なちゃんこ鍋のコースに舌づつみを打ちながら懇親を深めたのです。

この席ではいくつか面白いことがありました。モンゴル出身の白鵬関が優勝したので、奨学生を代表して同じモンゴル出身の明治大学のオソルさんがお祝いのあいさつをしました。白鵬関や朝青龍関は向こうでは国民的英雄だそうで、同胞の活躍を目の当たりにした彼女は誇らしげでした。

また特別ゲストとして同席していただいた大山親方への「質問コーナー」では、どんな質問にもまじめに答えてくださる親方に、大いに盛り上がりを見せました。大山親方本当にありがとうございました。

そして何といてもこの日のクライマックスは、秋元理事長へのサプライズでしょう。実は今回の交流会の2日前が偶然にも理事長の誕生日に当たっていたので、奨学生の間では数週間前から「プレゼントに寄せ書きを添えて渡そう」という極秘プロジェクトが進行していたのです。寄せ書きは当日、東京タワーのレストランで皆で書きました。

宴会中に突然呼ばれて驚いたのは秋元理事長。この計画は「知らぬは理事長ばかり」で進められていたので、理事



突然のプレゼントに嬉しそうな秋元理事長

長にとってはまさにサプライズだったのでしょうか。花束、寄せ書きと一緒にプレゼントのネクタイを手渡された理事長は、本当に感激なさっているようでした。

私は見ていて「今にも泣き出すのじゃないか」と思ったほどです。しかしそこはさすがの理事長、「ありがとう。理事長頑張りまーす！」と明るい笑顔で場を締めてくださいました。こうして第7回交流会は感激のフィナーレで幕を閉じ、奨学生達は次回の再会を約束して帰路につきました。このようなすばらしい企画を通じ、今後我々の絆はますます深まっていくことでしょう。



みんなで「ハッピーバースデー」を合唱

(担当：平成19年度 竜の子奨学生 早稲田大学大学院 黎 婷)

平成20年度竜の子奨学生 将来への夢をご紹介します

第2回奨学金贈呈式に続き、富士登山と大相撲観戦といった3回にわたる交流会を通じて、竜の子奨学生の仲間たちと仲良く交流してきました。今回はあらためて、平成20年度竜の子奨学生一人一人の生の声をお伝えするために、自分の関心ある問題や研究分野、将来への夢、趣味など、について書いてもらいました。全員の顔を覚えていただくきっかけになれば幸いです。

※アイウエオ順

李 知映 (イ・ジヨン)

韓国 ソウル市
東北福祉大学
総合福祉学部
社会福祉学科2年



最近、精神的に病気にかかっている人が多くなっています。そして、そんな人たちは自分だけの苦痛、悩みなどについて話ができる相手が周りにいないために、さらに自分自身の心の病気を重くしていく場合が多いのです。私は福祉の勉強を通して、人の立場に立って物事が考えられるようになりたいし、私が居ることで人々が安心した笑を取り戻し、その人の心に余裕が生まれたなら、私はもっと幸せを感じられると思います。最後に、竜の子奨学生の皆さんとお互いの文化を理解し合い、助け合い、最も深い心の交流をしていきたいと思っています。

李 承勲

(イー・スンフン)
韓国 釜山市
東京工業大学大学院
理工学研究科 電気電子工学専攻
博士後期課程1年



勉学や読書に忙しい日々でインドア派になりつつありますが、その反動で毎年河口湖マラソンに挑戦しております。今年も練習不足気味で良いタイムは望めなさそうですが、最近は兼ねてから憧れていたピアノを習うことにしました。この秋に始めたばかりで上手に弾けないですが、楽しくやっております。私生活も充実させながら専門の半導体光デバイスの研究に励み、将来人から認められる一人前の研究者になりたいです。

王 宇飛 (オウ・ウヒ)

中国 遼寧省
東京大学
教養学部
理科二類2年



私は少しでも漢方の作用仕組みを解明するために、日本へ薬学を勉強しに来ました。しかし、高い勉学費と生活費のため、留学生活は予想通りに進むことはできませんでした。そして、もう少しで諦めたいと思ったとき、私は竜の子奨学生に選ばれ、ようやく学業に専念できるようになりました。一度破滅しそうな夢がもう一度手の届けそうなところに戻って最高にうれしかったです。援助を下さった財団の方々に心から感謝しております。お蔭様で、今の私はもう一度夢に向かって鹿島立ちをしました。

OSOR MUNKHJARGAL (オソル・ムンフジャルガル)

モンゴル ウランバートル
明治大学大学院
経営学研究科 経営学専攻
博士前期課程2年



日本に来て留学生活を送るなかでさまざまなことがありました。初めての一人暮らし、それが言葉も知らない異国で始まったのです。勉強と生活をするためのアルバイトを両立させることがとても難しいものでした。何度くじけそうになったか計り知れません。しかし、今は竜の子奨学金を受けるようになって本当に留学生活を楽しむようになりました。自分の好きな研究に何も心配しなくて打ち込むことが出来るようになりました。将来帰国して日本で学んだことをたくさんの人びとに教えてあげたいです。多くの学生たちに囲まれて尊敬される教員になるのが私の夢です。

温 允 (オン・イン)

中国 浙江省
京都大学大学院
情報学研究科
通信情報システム専攻
修士課程2年



私は中国の温州市から来た温允と申します。温州は昔からみかんの名産地で、三国時代に孫権が温州みかんを曹操への貢物にした話もあります。私は小さい頃から海が大好きで、航海小説も大好きです。昔は航海を始めると、まるで世界と隔絶したようになりますので、そこから私が無線通信の重要性を感じて、今の研究のモチベーションになりました。私は趣味の多い人間で、特にサッカー試合の観戦は毎週必修となっていますが、最近体が太くなって、やはり見るだけは足りないなあと感じました。皆さんとずっと仲良くしていきたいと思っています。

崔 学東 (サイ・ガクトウ)

中国 遼寧省
九州大学大学院
理学府 分子科学専攻
博士後期課程3年



私の夢は化学家になることです。大学を卒業してから、中国南京で就職し、環境にやさしいポリウレタン断熱材料の研究をしていました。研究していくうちに、自分の研究力の不足を感じ、日本への留学を志願しました。今の研究テーマは温度感応性高分子という生体材料の合成であり、その合成した高分子の性質を検討した上、更に医療分野への応用に展開しています。将来、博士号を取った後、中国に戻って大学の教員になり、学生たちを教えながら関連研究をしていきたいです。第二期竜の子奨学生の一員となったこと、そしてアジア諸国から来た留学生たちと交流ができることは、人生にとって大事な経験だと思います。



奨学生の夢をご紹介します

SWANGNEAT KANNAWEE

(サバンネット・カンナビー)

タイ チェンマイ

北海道大学大学院

環境科学院 環境物質科専攻

修士課程2年



私はタイのチェンマイという町から来ました。元々世界の言語である日本語や英語に興味を持っており、タイにいたところから日本の観光客や交換留学生と話をしていくうちにますます日本のことに興味を持ち、日本に留学して来ました。日本に来てスキーをやってみて非常に感動しました。今年もまた行きたいと思います。私の趣味は世界を旅することです。それにより様々な文化やものの考え方、自然の大切さ、世界の情勢を実際に体感することができ、自分自身の成長に繋がっていると考えています。将来、科学に関する事だけでなく、自分が世界を旅して体感したこと、学んだことを大学の教師として教えたいと思っています。

宋 寿蓮

(ソウ・シュウレン)

中国 黒竜江省

慶応義塾大学

総合政策学部

総合政策学科2年



私は国際文化交流について勉強しています。大切な人たちと美味しいものを食べながら、過ごす幸せな時間が好きです。趣味は写真撮影、旅行、亀を飼うこと、ゲーム、油絵です。休日は友達と一緒に話をしたり、一人で映画を見たりしています。私はこれまでの趣味やアルバイト、ボランティア活動などを通じて、日本で多くの人と出会いました。さらに、この度秋元財団のおかげで様々な文化や習慣を持つ方々に巡り合っていることは私にとって、大きな幸せだと感じています。最近心に響いた言葉はD.カーネギーの「人生とは今日一日のことである」です。

趙 玲漢

(チョ・ヨンハン)

韓国 釜山市

青山学院大学

経営学部

経営学科3年



日本の大学で経営学を勉強している間、日本の経営システムや経営戦略などに非常に興味を感じ、経営コンサルタントになりたいという夢を持っています。特に企業が各個人の心理を読むことは難しいとされています。つまり、マーケティング戦略を考える際は最も消費者と近いところで相手が何を必要としているかを把握することが、企業のマーケティング戦略を有効にするために不可欠です。そのため消費財などの戦略やシステムを構築できるようなコンサルタントを目指していて、いつも店頭に立つと、ついマーケティングについて考えてしまいます。

張 亜晶

(チョウ・アショウ)

中国 黒龍江省

群馬大学大学院

医学系研究科 医科学専攻

博士(4年制)課程2年



私の夢は大腸疾患専門外来を創ることです。学んだ知識を生かして大腸疾患の治療に関わる分野の発展に力を注ぎたいと思っています。大腸疾患分野において中国の伝統の診断と治療方法が優れている部分を日本語や英語に翻訳して、紹介したいと思っています。趣味は針灸です。中国では針灸を習っていました。日本でも時々練習しています。特技とは言えませんが、将来病気の臨床治療にすこしでも役に立ちたいと思います。最後に積極的に秋元国際奨学財団の交流会に参加し、竜の子奨学生のみなさんと一生の友達になりたいと思います。

張 山海

(チョウ・サンカイ)

中国 天津市

亜細亜大学大学院

アジア国際経営戦略研究科

アジア国際経営戦略専攻

修士課程2年



昔から金融・商品先物や為替、株などの取引に興味を持ち、値段の動きを考えることが好きです。しかし、実際の取引をやるときに一度も儲かったことがありません。その原因は、やはり勉強不足であって、経済情勢や市場原理などを把握する能力がなかったのです。考えることが好きだといって、ただの空想に過ぎないと気付き、もっと勉強しようと決意し、来日しました。今の研究テーマは、「アジア商品先物市場の効率的運動性に関する研究——単位根検定・共和分分析による検討」です。将来、金融・商品業界で就職したいと思います。

張 沖

(チョウ・チュウ)

中国 浙江省

立命館大学大学院

政策科学研究科

政策科学専攻

博士前期課程2年



地球温暖化問題は近い将来に大きなビジネスになることを信じている。地球温暖化問題に関する資金と技術移転により、先進国にはビジネスチャンスが生まれ、途上国には持続可能な開発が可能となる。僕は、両者のWINWIN関係を構築することに貢献したい。そして、大きな利益が得られることを期待している。(皆と共栄しましょう。)休みの日に、家族に美味しい料理を作るときが一番幸せだと感じる。私はキリストを信じ、聖書のみことばが私の人生を導いてくださることを信じる。神様は私の足の灯で、私の道の光である。

張 恬甄

(チョウ・テンジン)

台湾 台中市

立教大学大学院

異文化コミュニケーション研究科

異文化コミュニケーション専攻

博士前期課程2年



私の専攻は異文化コミュニケーションです。私の修士論文のテーマは留学生の学習意欲に関する研究です。私はモチベーションに大変興味があり、何らかのかたちで周りの人の力になりたいです。なので、周りの友達が落ち込んでいるときは友達を笑わせたくて、お笑いにも興味あります。また、友達が悩んでいる時は一緒に解決したい気持ちが常にあるので、カウンセリングにも興味があります。夢は遠い将来に智慧が溢れるおばあちゃんになることです(笑)。

CHOWDHURY ISHTIAQUE AMIN

(チョウドリー・イシテイク・アミン)

バングラデシュ ガジプル市

立命館アジア太平洋大学

アジア太平洋マネジメント学部

アジア太平洋マネジメント学科4年



持っている夢を実現するフィールドが、日本には必ずあると思い、日本に留学しました。マイクロクレジットのやり方とKUMONの教育方法を合わせると、バングラデシュだけではなく、ほかのアジアの発展途上国々の運命や経済的な貧困を変えることができていると思っています。技術経営(MOT)のゼミで「基準競争や会社戦略」というテーマについて研究し、日本の大手メーカーに就職したいです。大学の大きなキャンパスや秋元国際奨学財団では、勉強しながら自信・信頼・仲間・責任を大切にしています。釣り、切手集、万年筆、旅行などに興味があります。



陳 依蓉

(チン・イリユウ)
台湾 台北市
早稲田大学大学院
アジア太平洋研究科
国際関係専攻
修士課程2年



陳依蓉と申します。友達と皆さんからボリーと呼ばれています。今は早稲田大学大学院、アジア太平洋研究科で、国際経済を勉強しています。台湾と中国の貿易関係を中心に研究しています。今は論文の作成に頑張っていて、アジア社会に貢献できるような論文を書きたいと思います。そして、卒業する前に、もう一つ目標があって、それは料理ができることです。食べることが好きだから、自分がその料理ができたら、きっとより楽しくなれると思います。ですので、今、毎日練習しています。では、これからも宜しくお願いします。

朴 敬玉

(パク・ケイギョク)
中国 吉林省
一橋大学大学院
社会学研究科
総合社会科学専攻
博士後期課程3年



現在の中国東北地域はジャポニカ米の主産地になっていますが、その歴史は100年ぐらしか経っていません。歴史への理解が現代中国の抱えている問題を考察していくうえでも重要であるということから、近現代中国東北地域における稲作農業の展開というテーマで研究しております。農業や農村問題に興味を持つようになったのは現代中国社会の都市と農村間の経済格差を考え始めたからです。修了後は、研究者・教育者として活躍し、もっと平和で公平な社会を創るために努力したいと思っています。

馬 耀 (マ・ヨウ)

中国 大連市
筑波大学大学院
人文社会科学研究科
文芸・言語専攻
博士後期課程2年



母国における日本文学、特に古典文学の教育は教員が不足している現実に直面しています。そのような深刻な状況を改善したい一念から、私は現在日本古典文学を専攻しています。教壇に立つ日に、日本文化について少しでも多く伝えることができれば、それが国際交流の一環にも繋がるのではないかと考え、日頃から日本文化との触れ合いを大切にしています。また、専攻の関係もあり、寺社巡りや博物館を見学することが趣味です。竜の子奨学金のおかげで勉強も趣味も充実する日々を送ることができ、本当にありがとうございます。

万 欣 (マン・キン)

中国 武漢市
電気通信大学大学院
情報システム学研究科
社会知能情報学専攻
博士後期課程2年



私の研究では、人間とコンピュータ等を中心とする情報システムの関わり合いを問題意識として、幅広く次世代の情報文化をどのように創出していくべきかをテーマとしている。博士号を取得した後、大学で教鞭をとる計画である。その際、得られた貴重な留学経験と、大学院で磨いてきた学術的な経験を両方とも生かし、対外的には世界諸国の知識処理技術と人工知能技術に役立つ活動しながら、学内では研究者や教師として学問の進展に寄与し、学生の指導に充実したい。最後に一言、学問の世界のみならず、世界の平和と発展のために国際理解と交流の場においても私の使命を果たしたい。

余 筱秋

(ヨ・ショウシュウ)
台湾 桃園
東京外国語大学大学院
地域文化研究科
日本文学専攻
博士後期課程2年



私は母国の大学にいた時初めて日本文学に関心を持つようになり、そのきっかけで博士学位を取ることを目標にして日本の大学院にきました。「人間の問題」を扱う文学を勉強しながら、自分の内面を顧みることもできて、その研究に大変面白く感じています。一方勉学の道は、長くて辛いものもありますが、いろいろな面で助けの手を差し伸べてくれることに常に深く感謝しています。そして、自分は文系の人間なので、このような交流の場で物事を違う角度で考える「理系の脳」などに会うこと、違う国・文化背景の人に触れ合うことに嬉しく思います。

楊 志剛

(ヨウ・シゴウ)
中国 河北省
日本大学大学院
薬学研究科 薬学専攻
博士前期課程2年



私は現在メタボリックシンドロームに対する生薬や漢方薬の活性成分を研究しています。将来、中国の大学の先生になり、日本で学んだ知識や技術をできるだけ中国の中医薬科学技術の発展に貢献したいと思っています。

この度、竜の子奨学金を頂けることとなり、学業と研究により一層集中することができます。また、奨学生の一員として交流会に参加し、日本の文化を体験しながら同じアジア地域出身の留学生と交友を深めることができました。これから、皆さんと一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

李 博 (リ・ハク)

中国 遼寧省
東京海洋大学大学院
海洋科学技術研究科
応用環境システム学専攻
博士後期課程1年



海は、人々の生活と密接に関わる掛け替えのないものであり、最も身近な自然の1つでもあります。しかし、このように大切な海であるのに、資源枯渇や環境汚染など様々な海洋問題が中国に起きています。また、中国産の食品に対する不信感が広がり、このような社会問題に対し、私は自分の使命感を強く感じています。現在、環境や食品の安全管理などの側面から、中国の水産業の持続可能な発展に関して研究しております。卒業後は母国に帰って、大学で教鞭を持つことで、日本で身につけた専門知識と研究成果を活かしていきたいと考えています。

劉 潤福

(リュウ・ジュンフク)
中国 大連市
東京芸術大学大学院
美術研究科
文化財保存学 工芸・陶芸専攻
博士後期課程3年



趣味は陶芸です。仕事も陶芸です。つまり趣味は仕事ですね。楽しく仕事をしていますよ～バリの働き者です。

ところが、博士課程まで勉強し、素晴らしい夢があるはずですが、意外とありません。文化財保存学専攻なので、山に窯を築き、陶器を作り、伝統文化を守りたいです。お米、野菜、果物を植え、野良仕事もしたいです。自家製のお酒と旬の料理を楽しみながら、好きな人と一緒に人生を送りたいです。もちろん、インターネットもありますので、連絡のほうよろしくお願いします。



劉 亮
(リュウ・リョウ)
中国 山東省
東北大学
文学部
人文社会学科3年



東北大学で心理学を専修している中国からの劉亮と申します。よろしくお願いたします。うちの心理学研究室は、実験心理学や社会心理学の基礎的問題が中心にして、さらに、実験的な面白い問題も手がけています。そして、これまでの数々の実験の中に、もっとも印象深いのは、ダットン・アロンの有名な「つり橋の実験」です。簡単に言えば、つり橋を渡ること、意中の人をドキドキさせることです。つり橋理論を知っていれば、選ぶべきデートの場所はおわかりですから。と言っても、実は私はこの理論を無視していたのです。ですので、今も恋愛は下手なんです。

王 慧杰
(ワン・フィジェ)
中国 河北省
東海大学大学院
文学研究科
日本文学専攻
博士後期課程1年



私は言語や言語学がとても好きです。気づきましたら、中学校からずっと色々な言語を習っていました。英語、スペイン語、韓国語、そして日本語。今現在は、複合語、特に複合動詞に関する日中比較研究をしており、近い将来、この研究で両国における日本語教育、そして日中文化交流に役に立てば幸いだと考えています。休みがある時は、能楽、狂言や歌舞伎を観に行ったり、京都、奈良、または鎌倉などの歴史の長い町に行ったりと、中世や平安時代の日本語と日本の伝統文化にふれる旅に出ることが多いです。良かったら、今度一緒に行きませんか。

(担当：平成20年度 竜の子奨学生 一橋大学大学院 朴 敬玉・東京大学 王 宇飛)

竜の子近況報告



「上海新発見」

余 嵐 (中国・上海)

立命館アジア太平洋大学アジア太平洋マネジメント学部 2008年9月卒業

※就職のため、来年3月にまた来日する予定です。

みなさん、こんにちは。お久しぶりです。私はやっと大学を卒業しました。来年入社するまでの半年間は上海の実家で過ごします！上海は中国の文化と西洋の文化が混ざっている近代化な町です。日々毎日大きな変化を遂げています。自分もまだまだ上海の歴史と文化を完全に知らないで、この半年間を利用してもっと勉強したいとおもっていますよ。もしみなさん、上海に来るチャンスがあれば、ぜひ私と連絡してくださいね。一緒に上海で探検しましょう。また最近、自分をもっと成長させるため、一番苦手の英語を勉強しています。毎日言語学校へ通っています。学校は上海の一番にぎやかな町にあって、毎日たくさんの観光客がこっちに寄ってきます。この前、面白い写真を撮ったので、次の交流会の時に皆さんに紹介します。先週は上海旅行日だったので、さまざまなイベントがここで開催されました。中国伝統の音楽の演奏にあわせて、ヨーロッパから来た観光客は思わずダンスをしていました。こんな風景はここで毎日触れることができます。私も毎日この日々躍進している上海の町で英語をがんばっています。ところでみなさんは最近いかがお過ごしですか。



「東京工業大学の学園祭」

アズハニ ビンティ イスマイル (マレーシア・スランゴール州)

東京工業大学 理工学研究科・応用化学専攻 修士課程・2年

秋の学園祭では、マレーシアの留学生が店を出し、マレーシア料理を売っていました。“ムルタバ”という料理を売って、日本の料理でいえば、お好み焼きに近いです。日本人や他の国の人々にマレーシアのことを紹介でき、とても楽しかったです。一生懸命準備をし、みんなの協力のおかげで、よく売れました。お客様から美味しいといわれて、何より嬉しかったです。秋元国際奨学財団から奨学金をもらうことで、まだこの大学にいられて、勉強も、他のことも楽しくできて、感謝の気持ちが一杯です。これからも日本にいる時間を楽しんでいきたいです。



「近況報告」

孫 揚 (中国・遼寧省)

立命館大学 国際関係学部国際協力開発コース 4回生

四回生の前期セメスターから、「中国における環境経済政策」というテーマのもとで研究を行っています。主に中国遼寧省の環境汚染と環境政策について研究するため、中国遼寧省に赴き、現地で情報収集・情報分析を行います。現地調査研究によって、より多くの汚染現状が分かり、環境政策の改善に役立つ情報を入手しました。研究ゼミで「中国環境政策の過去・現在・未来」というテーマの研究論文を発表し、好評されました。また、港町大連で、観光客に捨てられたゴミだらけの砂浜に驚き、研究グループ全員はボランティアとしてゴミ拾いと「ゴミ持ち帰りましょう」という宣伝をすることになり、「海をきれいに」するために微力ながら貢献しようと思います。



「初めての高校生たちとの国際交流体験」

曹 洋 (中国・瀋陽)

京都大学 農学部 食料・環境経済学科 4回生

先週、私はガイドとして、新潟県立新潟南高等学校からの高校生たちと接触するチャンスがありました。国際交流を兼ねて、7人の女子高校生に京大キャンパスを案内し、一緒に伏見稲荷大社を回ってきました。初めて日本の高校生と会話するため、最初は心配していましたが、思ったより付き合やすく、すぐに友達になりました。留学生活から大学の勉強まで、たくさん話ができていい経験にもなりました。「知らない」と「愛が生まれない」という言葉がありますね。今回の機会を通じて、国際交流の一環として同世代の人とふれあい、言葉を交しあい、交流することがいかに重要であるかを私は思いました。これからの留学生活でも学業を頑張るとともに、一人の留学生として世界平和の輪を広げるために、ささやかな力を貢献したいと考えています。



「タイ・カンボジアでの夏休み」

朴 性昱 (韓国・ソウル市)

北海道大学 工学研究科・人間機械システムデザイン専攻 修士課程2年

私は、学生最後の夏休みにタイとカンボジアに行ってきました。初めて行くところで、不安とワクワク感でいっぱいでした。2週間弱の日程を組み、いざ出発！異国での旅行は刺激的で楽しさでいっぱいでした。タイはさすが観光大国であることもあり、観光地も多く、旅行するには特に不便は感じられなかったです。買い物する時や乗り物を乗る時、ぼったくりに注意するくらいかな。(でも実際には食あたりで2-3日苦労しました。。。) カンボジアはアンコールワットを含め、素晴らしい遺跡が多く残っていてよかったのですが、思ったより貧しい人が多く、特に多くの子供たちが学校に行けずに観光客相手に商売をしているのを見て、心が痛みました。

私はこの旅行を通じて、改めて人の温かさと、世界は広く、色々な人々と人生があると感じました。機会があればまた行きたいと思います。



編集後記



委員長

電気通信大学大学院
夏力哈尔

私は生まれてから初めての編集委員長を務めさせていただきました。かなり重い責任と緊張を感じながら全3回の編集会議を行い、皆さんと真剣な意見交換をしました。初めてということですが、編集委員やプロの方々のサポートと協力で「竜の子奨学生」会報第3号の編集が無事に終えることができました。このように、会報を通じて皆さんの間の交流が少しでも深まれば幸いです。最後に会報第3号の編集協力をしていただいた「竜の子奨学生」の方々、編集委員の方々に厚く御礼を申し上げます。

副委員長

東海大学大学院
王 慧杰

時間が過ぎてゆくのは何とも速いもので、会報第3号の編集作業に参加してから、あっという間に、イルミネーションが輝くクリスマスの季節となってきました。この2ヶ月の間に、企画会社のプロの方のお力を借りながら、みんなが協力しあって、無事に編集作業を終えることができました。そして、それと共に、学校では学べないことを学び、貴重な経験を積み、自分自身としては、成長することもできました。というわけで、この場をお借りして、自己紹介文や近況報告などを投稿してくれた竜の子奨学生の皆さん、一緒に作業に携わった編集委員会の皆さん、そして何より、今回のこの貴重な体験をさせてくださった財団及び関係者の方々に、改めて感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

委員

筑波大学大学院
馬 耀

「竜の子奨学生」会報第3号の編集会議は全3回で終わりました。振り返ってみると、ほとんどのメンバーにとっては生まれて初めての編集ということもあって、1回目の会議はとても緊張した雰囲気でした。しかし、良いものを作りたいという共通した気持ちを持っているみんなは、会を重ねるにつれ、少しずつ溶けこむようになりました。そして、編集委員以外の竜の子奨学生の協力やプロの方の指導のおかげで、編集が無事に終えることができました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

委員

東京大学
王 宇飛

第三号の編集委員の皆さんお疲れ様でした。編集が初めてのことで、最初は少し不安でしたが、三回の編集会で効率よく完結できてとても嬉しく思っています。協力して下さった皆さんと一緒に頑張ってきたメンバーたちに本当にありがとう。そして、今回の編集で皆さんから寄ってきた文章や写真を見て今までの暖かい思い出が蘇り、改めて竜の子奨学生としてならでの幸福感を覚えました。「竜の子」の絆でみんなは広い世界からここで結びつきました。これからもみんなはこのありがたい「絆」を大切にして未来を切り開いていきましょう。

委員

一橋大学大学院
朴 敬玉

初めての編集であったので、最初は少し不安もありましたが、みんな一丸となって頑張ったおかげで、3回にわたる交流会を振り返りながら、楽しく作業を終えることができ、とても嬉しいです。私は主に平成20年度「竜の子奨学生」の紹介文を担当しました。一人一人の紹介文を読みながら、将来さまざまな分野で活躍されるみなさんの姿を思い浮かべました。またみんなと同じく「竜の子奨学生」の仲間になった自分がとても幸せだなと思いました。ご協力ありがとうございました。そして、貴重な体験を与えていただき、心より感謝申し上げます。

委員

東京大学大学院
呉 延花

編集委員として会報を編集するのが初めてでしたので、最初は「本当に私にはできるのか」という疑問を持ちながら始めました。しかし皆さんといろいろと意見を交わし、話し合っている間に不安や心配はなくなり、「会報を良いものに仕上げよう」という思いだけでいっぱいでした。私の担当した第5回交流会のレポートにつきて、まだ未熟なところもあると思いますが、当時の事や気持ちがちゃんと皆さんに伝えられれば嬉しいです。今回の会報編集は、私にとって本当に忘れられない良い経験でした。

委員

早稲田大学大学院
黎 婷

私が来日した当時は、ちょうど人気横綱の貴乃花が引退した時期でした。テレビをつけると連日その報道ばかりで、中国にいた時から多少相撲に興味を持っていた私はそれですっかり相撲ファンになってしまったのです（人は私を「変な外国人」と呼びます）。今回の交流会は国技館での大相撲観戦に加え、ちゃんこ料理まで堪能できるという、私にとっては夢のようなフルコース。大満足の日でした。ですから今回の編集委員を決める際、私は率先して手を挙げたのです。本稿を担当することができて本望です。



Akimoto Tatsunoko
International Scholarship Foundation

財団 秋元国際奨学財団
<http://www.tatsunoko.jp>



竜の子奨学生

第3号

2008年12月10日発行 2009年9月14日改訂 財団法人秋元国際奨学財団
〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目1番24号 京王新宿三丁目ビル2階 TEL:03-5367-2002 FAX:03-5367-2155